

旅立ち

高知盲新聞

発行所
高知県立盲学校
高知市大膳町 6-32
TEL 088-823-8721
mo@s.kochinet.ed.jp

<http://www.kochinetsu.com/>

三月一日（火）に、高等部本科保健療科一名、専攻科理療科一名、計二名の卒業生が、学び舎を巣立ちました。それぞれの新たな環境での活躍を期待するとともに応援しています。

そして、三月十五日（火）には、幼稚部一名、小学部二名、中学部二名の計五名が卒業・修了しました。それぞれが他校や本校の小学部、中学部、高等部へ進学します。新たな学部で新たな仲間と一緒に学ぶこととなります。楽しい思い出と一緒に作りましょう。

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。



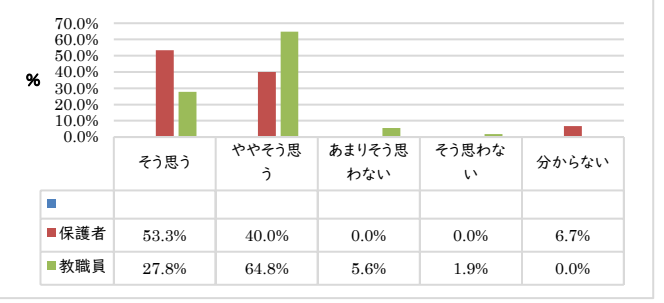
学校評価アンケート

今年度も、学校評価アンケートを実施しました。保護者の皆様には、学校評価への協力ありがとうございました。

学校評価アンケートの結果から、取組については高い割合で肯定的評価をいただきました。しかし、保護者の皆様からは学習指導の内容や、連携等について、生徒からは学校行事や部活動について改善に向けての意見がありました。また、教職員も部活動・学校行事について、課題があるところとされている者がいました。このアンケート結果を真摯に受け止め、課題を洗い出し、課題解決に向け、具体的な改善策を探り、チーム学校として取り組むとともに、学校の取組が保護者や地域の皆様に十分に伝わるよう丁寧に情報発信を行ってまいります。

学校教育目標について

- 【問1】
- 保護者：学校は個別の教育支援計画、個別の指導計画を保護者に十分に説明し、それをもとに効果的な指導を行っていますか。
 - 教職員：あなたは個別の教育支援計画、個別の指導計画を保護者に十分に説明し、それをもとに効果的な指導を行っていますか。



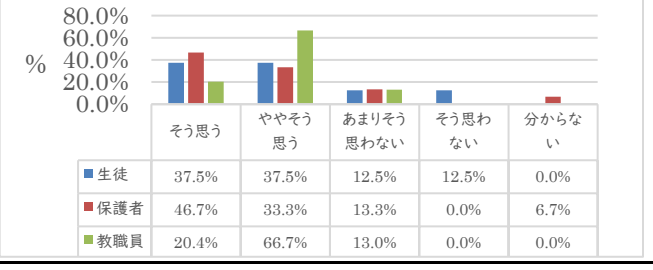
また、今年度もコロナウイルス感染予防のため、スポーツ活動はもとより、多人数が集まる活動、地域と連携した活動、校外

での活動などについて中止となったり、縮小して行ったりすることが多くありました。このことは「学校評価アンケート」においても、「コロナ感染が拡大していることあり、あまり行事がないと感じている」「感染対策は大変ですが、学校生活は短いものです。短い中で楽しい思い出をつくりたいです」等の声が生徒だけではなく、保護者、教職員からも出されていきました。今年度も、コロナ感染症対策の徹底を図りながら、可能な限り学校行事等の実施に取り組んできましたが、十分とは言えない現状があります。今後、コロナ禍においても幼児児童生徒の活動を充実させ、教育効果を高める工夫を、教職員一丸となって行ってまいります。

学習指導【ICT活用】について

今年度本校では「GIGAスクール元年」をキーワードにICT活用を一年間取り組んでまいりました。授業においてICTを活用しようという教員の意識も高まり、日々の学習活動や研修等でICTを活用する場面が増えました。それに伴い、児童生徒もICTを活用しながら主体的に学習に取り組む姿も多く見られるようになりました。ただ、保護者からは、学校でどのようなICT活用について取り組んでいるのか分かりにくいというご意見もいただいています。今後は、学校での取組を知っていただけるよう、より一層情報発信をしていきたいと思います。

- 【問4】
- 生徒：あなたは、タブレットやパソコンを活用して学習ができていますか。
 - 保護者：教員は視覚障害の専門性に基づいてタブレットやパソコン等のICTを活用し、効果的な学習指導ができていますか。
 - 教職員：あなたは視覚障害の専門性に基づいてICTを活用して効果的な授業をしましたか。



居住地校交流、地域の小学校、中国四国の盲学校とのオンラインでの交流及び共同学習、また、日々の様々な学習活動において積極的にICTを活用しています。

3学期の様子を学校ホームページより紹介します

「触察ワークショップ」

一月十七日と二十日の二回に渡り触察ワークショップ研修セッション研修をオンラインで行いました。

講師は、沖縄美ら海水族館の横山希代子氏、魚類課教育普及係として勤務し、長年触察の指導について実践され、魚類の教材を活用した触察指導について経験豊富で、多くの研修会の講師も務められている方です。

ワークショップで触る教材は、沖縄の美ら海水族館から送っていただき、お借りしたもので、教員が研修を受けた後は、実際に児童生徒の学習にも使わせていただくことになっていきます。

ワークショップ「サメのふしぎ」では、まずコイのアルコール標本を触察し、魚類の基本の触察、尾ひれ、鱗、顎、歯の触察を行いました。教員対象の研修でしたが、「おもしろい！」「へえ〜」と、感動や驚きがいっぱいでした。



「にこにこ市開催！」

中学部・高等部の作業学習等の時間に制作した品物を販売する「にこにこ市」を開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、対面での販売は校内のみとなりましたが、保護者の皆様にはオンラインで作品紹介の動画等を見ていただき、ネットや注文紙で購入申し込みを頂く新しい方法も導入し実施しました。

感染症予防のため、来店時間帯を振り分けたり、会場内への入場人数を制限したり、換気・消毒等も徹底したうえで、生徒が受付や会計等のそれぞれの担当の役割をしっかりと果たしました。

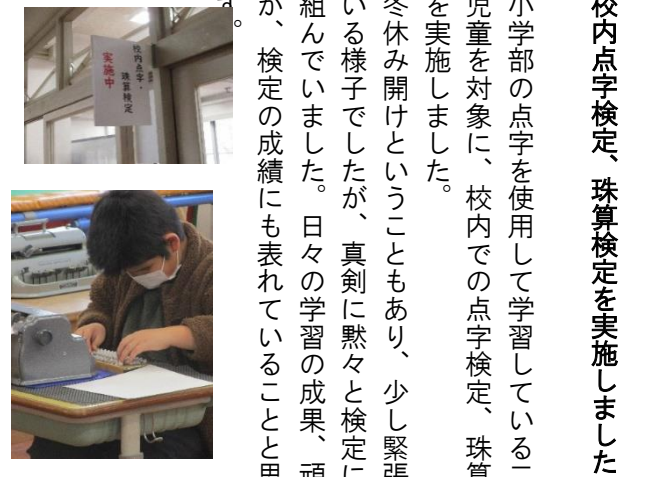
それぞれの商品の陳列場所には、生徒がパソコンで作成したポップも貼られていて、品物は飛ぶように売れ、大盛況で、準備していた物は予定していた時間内に完売でした。



「校内点字検定、珠算検定を実施しました！」

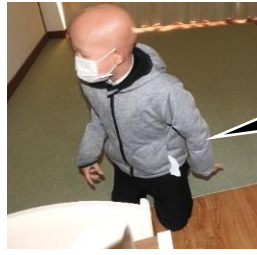
小学部の点字を使用して学習している二名の児童を対象に、校内での点字検定、珠算検定を実施しました。

冬休み明けということもあり、少し緊張している様子でしたが、真剣に黙々と検定に取り組んでいました。日々の学習の成果、頑張り、検定の成績にも表れていることと思います。



「3学期防災避難訓練(寄宿舎)！」

一月三十一日(月)の夕方、寄宿舎で三学期の防災避難訓練を行いました。いつもの避難訓練に比べ、舎生や職員の方に一段と真剣さが増しているように感じられたのも無理もないこと。一月二十二日の深夜、日向灘沖を震源とする大きな地震があったことを思い出したからでしょうか？帰省中の舎生の中には深夜に鳴り響く「緊急地震速報」の警報音にとっても強い不安を覚えたようです。今回の訓練では事前に寄宿舎の職員から舎生全員に「緊急地震速報」の模範音を周知したうえで訓練を実施しました。高知県下でもオミクロン株の感染拡大により、実際の避難場所に移動する訓練はやむなく中止し、それぞれの居室でシエクアウト訓練に変更しました。



机に急行！



頭を低く 亀の姿勢！

「創立記念日の給食」

二月二十日(日)は、本校の九十三回目の創立記念日です。昭和四年二月二十日に高知県立盲聾学校設立が認可され、この日を創立記念日としています。最初は仮校舎でしたが、その年の七月に高知市江ノ口浦別当(現在の愛宕町)に、新校舎が落成しました。創立当時は、盲部三十二名、聾部二十二名の合五十四名、盲部は中等部鍼灸科十八名、同別科五名、初等部九名の四学級でスタートしたそうです。

毎年創立記念日には給食に赤飯を出しています。今年は、栗を入れたより豪華な創立記念日お祝いメニューとなりました。



「給食感謝式を行いました」

二月二十八日は、高等部三年生にとって最後の給食となりました。それに合わせて、いつもおいしい給食を作ってくださいという調理員さんへの感謝式を行いました。

生徒会長が代表して、調理員さんへ感謝状を読み上げ贈呈しました。最後は幼児児童生徒、教職員より感謝の気持ちを込めた盛大な拍手を送りました。調理員さんはみんなの前に出るまで「恥ずかしい。もうえいちゃ。」と照れていたが、みんなからの感謝の気持ちに喜んでくださっていました。



調理員さんにインタビュー

Q: 給食を作るときにどう思っていますか？
A: 皆さんが、笑顔で残さず食べてもらいたいという思いで一生けん命つくっています。

調理員さんが僕らに残さず食べてもらえるようにという思いを聞いて、これから苦手なものが出てもしっかり食べてほしいと思います。

生徒の作文を紹介します

「わかっていくけど」

高等部普通科二年 西森海羽

「第十九回オンキョー世界作文コンクール」出品

私は視覚障害者である。もちろん通学には常に白杖を使用している。でもプライベートでは基本的に白杖を使ったりすることは無い。

それはなぜか。「荷物になる」「私に付き添ってくれている人に当たってしまう」そんなことが理由ではない。理由はひとつ、「他人の視線が気になる」からだ。それだけである。きつと私に関わっている人たちは思うだろう。それは命よりも大事なことになるのかと。

もちろん命が一番大事だ。白杖を使わずに歩けるとはいっても、遠くのものにはつきりとは見えない。道路や看板の文字は近くで見ても何を書いているのかは分からない。私の見え方は全盲と弱視の間なのではないかと思う。つまり見えているわけでも見えて

いないわけでもない。私の見え方は中途半端だ。色や線、日常生活で使うものはほとんど分かるので少しくらい見えなくても生活する上で困ることはない。わかっているのだ。でもそうではない。わかっているのだ。

中途半端な見え方がとても危険なこと。階段は見えていても段差の見間違いで転ぶことがある。そんな時大抵の人は真つ先に怪我の心配をするだろう。でも私は違う。良くないことだが、階段での踏み外しはよくあることで、すっかり慣れてしまった。怪我よりも他人の目のほうが気になるから、怪我の状態よりも先に周囲を確認する癖がついてしまっている。きちんと白杖を持っていないと周囲の人達は目が見えないから仕方ないと思

い、直ぐに私を助けてくれるだろう。私が学校以外で白杖を持ちたくない理由はそこにある。階段だけではない。転んでも人とぶつかっても、「目が見えないから仕方ない」と思われるのがとても嫌なのだ。白杖を持っていけば周りの人たちは私を避けてくれる。子供もお年寄りの人も。それがとても申し訳ない。普通なら高校生の私が避けてあげなければならぬ弱者と呼ばれる人たち。白杖を持った人が、変に人を避けることばつかること

もある。他人から見れば目が悪いから仕方ない。でも私は申し訳ないと思う。正直白杖を持つと疲れる。白杖を持たなければ何気ない道を何気なく歩いている人と同じように気楽に歩ける。それは私にとって命と変わらないくらい大切なことなのである。でもわかっている。そんな中途半端な視力だけで行動していればいつかは事故に遭ったり、事故を引き起こしたりするということを。そして白杖を持つていけば命が助かる確率はとても高いということもわかっている。このことは自分だけの問題ではなく、相手にも迷惑がかかるということも。それでも他人の目が気になる。これはおかしいことだろうか。

私の学校には生まれながらにして目の見えない人たちがたくさんいる。そんな人たちは白杖を持つのはごく自然なことだ。何よりも命が大切だから他人の目など気にしていません。合ではない。そしてその考えは当たり前のことなのだ。そう思っていて、堂々と白杖を使って生きていく人たちが私には羨ましい。私にはそんな考え方はとてもできそうになくて難しい。

中途障害の私は、命よりも他人の目が気になる。他人から私はどう映っているのだろう。どう思われているのだろう。白杖を持っていないければ、そんなことを気にすることもなく自由に動ける。とても楽しい。そうはいっても、いつまでも白杖無しで行動はできない。だから早く人目を気にせず白杖を持って堂々と歩く私になりたいと思っている。中途半端は危険。そしてなにより命が大事。それを頭でも心でも早く理解できればいい。

「学校に来ませんか」

高等部本科理科 三年 木下里枝

「令和三年度人権作文コンテスト」奨励賞受賞
私は校門を入ると女学生になります。校内では朝は「おはよう木下さん元気」とか、昼は「こんにちは」と声がかかります。会う人会う人皆です。不思議でした。私が可愛いからかな、などと思ったりしたのですが、しばらくすると先生・生徒みんなが声をかけあっていることに気づき、気持ちが温かくなりました。挨拶は、とても大切なことで、笑顔になります。

この学校は支援学校ということもあり、さまざまな年代の生徒がいます。体育館ではトランポリンをしたり、音楽室からはきれいな歌声が聞こえたりします。またここに市では皆で協力して沢山の物を作って販売しています。

学校はルールを学び、ルールを守る練習をする所、皆が今自分にできることを一つでも増やそう、社会性を身につけようとして前向きです。私はそんな年代の違う友達から元気や若さをももらいました。この学校に通い始めて、気持ちの若くなった私は、すっかり女学生気分です。今年のバレンタインには「本命よ」と言

って幅広くチョコを配りましたが、誰一人返事はありませんでした。自信があっただけに少しショックでした。私が学校に来ようと思った大きな理由は、今まで目の悪さから他人に助けをもらうことが多かったことから、私も他人の役に立ちたいと強く思ったことがあったからです。そのきっかけとは、ある時困っている人を家まで送った時、何度も何度もお礼を言われた経験からでした。その「ありがとう、ありがとう

」という言葉の響きに心がスツツとなり、私も誰かの役に立ちたいという強い思いが生まれました。他の理由は、給食が美味しいと噂に聞いたことや、あそこ今年でまた給食や大好きな黒板と会えるなんて幸せと思ったことなどがあります。

でも世の中はそんなに甘くはありません。あたりまえですが学校である以上勉強というものがあります。最初はいたたい何語だろうかと思うような医学用語、見たこともない漢字、そのうえ今日習ったことを明日は忘れていく。そんな私に先生方は「え、忘れたの。じゃあもう一回しようか。」と、同じ説明を何度でもしてくれくれます。先生は一人ひとりを見ていてくれるのです。おかげで私は授業が嫌だと思

ったことはありません。ただ勉強の方は私を嫌みみたいですが。目が悪くて悩んでいる人、見えにくくてあまり外に出ない人、盲学校に来ませんか。先生方や私達と互いを励め合うのではなく、今自分は何がしたいのか、何ができるのか、自分探しをしませんか。

学校では運動会、遠足など色々な行事があり、又沢山の友達との出会いの中で小さな、そして大きな発見もあると思います。私は以前は思い悩むタイプでしたが、最近では笑うことを忘れない生活をしようと心掛けています。最後になりましたが、給食は噂以上に美味しいです。卒業したら食べられなくなるのがとても残念です。

高知新聞川村販売所さんいつもありがとうございます。私どもの高知盲新聞は、川村販売所さんのご厚意があつて、地域の皆様にお届けすることができています。本当に感謝しております。

今年度も、皆様のおかげで無事に一年を終えることができました。感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございます。盲学校は、令和四年年度も地域の皆様にご厚意を届けられる学校でありたいと思いますので、引き続きご支援ご協力いただけますようお願いいたします。